令和5年度　第6回 「知事と語る　やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：従業員の子育てに対して企業ができること

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、県内企業の人事責任者などの皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和5年12月21日（木） 午後2時から　県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】　6名

（主な意見等）

〇男女問わず全ての職員が働きやすい環境を作るため、制度を説明する社内ページの作成やワークショップを実施。行政手続のDX化や代替要員の紹介があれば良いと思う。

〇育休職員のいる部署では工数短縮や他部署からの応援で乗り切っているが、育休職員への不満や職員自身の不安への対応が課題。保育施設の拡充、助成金を使わず企業内の工夫で乗り切った企業や部署にインセンティブを与える仕組みなどの検討を希望する。

〇敷地内に保育園があり、会社が保育料を半額支給。復職の際も正社員・パート社員・その間の準社員というシステムを作り、本人の働きやすい環境で働いてもらっている。

〇勤務時間内の会社への貢献量を評価するとともに、男性育休を強力に推進。他の職員からの時短職員への不公平感が課題。県は他社の事例を詳細に発信いただければと思う。

〇若手職員の提案で職場環境が変化。人員補充のさらなる助成金があれば良いと感じる。若者がUターンしたいと思えるような魅力的な企業、遊べる場を県に整備していただきたい。

〇時短勤務の導入や育休職員への丁寧な面談を行っているが、業務の属人化や内容の共有の不十分さが課題。県は中小企業へのDX導入・活用支援をしていただきたい。

〇人員補充の助成金は前提条件の縛りがあり、中小企業が活用するのは現実的には難しい。条件の見直しについても検討いただきたい。

〇子どもごとに手がかからない子・そうでない子は違う。やりたいことをやる人にリスキリング支援をするのは良いが、一概に育休中の人への復職支援として出されると、どうか。

〇産後パパ育休という制度ができたが、社内では利用者がいない。1年経たないと育休取得の対象にならないためだが、入社年数関わりなくとれるようになればもっと増えるのでは。

（知事（県）の主な発言）

〇男性育休・職場内の育休職員や産休職員を想定したワークショップについて、子育ての大変さを担っていない人が、大変さをリアルに体験できる。県でも導入を検討したい。

〇レスパイトケアサービスを充実させることを検討している。育休中のリスキリングやお休みへの対応や、一時預かりを不安に感じる方にはサポーターを自宅派遣するなど。

〇復職支援の助成金の条件が厳しいという点や、1年経たないと育休取得の対象にならない点など、国に話をしていく。

〇各企業において創意工夫を凝らしながら進めていただいている。他社の事例を共有するなど、人事・管理業務に関わる方々と情報共有ができる仕組み作りを考えていきたい。